

● 6月28日(水) 新冠幌尻岳(2052m)・新冠陽希コース 晴

・4時前に起床。昨日の入山で疲れていたのだろう、よく寝た。

4時55分、小屋を出発。昨夜同泊した二人はもうすでに出て行った。私は焦らずのんびりと支度をした。天気は薄く霧がかかっているが、明るいので晴れてくるだろう。

・昨日得た情報では「今年の新冠ルートは沢に残雪が多くて危険。すでに3人も雪渓で滑落している。アイゼン、ピッケルは必需だ。」と脅かされている。アイゼンは4本爪だしピッケルは持って来なかった。どんなに厳しい道なのか不安を抱いての出発だ。山荘を出て数分も歩くとまず川沿いの岩壁のトラバースが待っていた。ロープは張ってあるが足場が脆くてガサガサ、かなり危険なトラバースをなんとかこなし先へ進んだ。まず付き付けられた試練にこれから先の登山道への不安が広がった。

・その後はさほど危険も無い川沿いの笹藪の中の道を、ヤブコキしながら約1時間歩いて渡渉点に到着した。ここまでは大きな渡渉は無かったがここは結構大きな渡渉だ。幸いにも水量が少なかったので濡れずに沢を渡り登山口に到達した。



渡渉点・水量が少なく濡れずに済んだ

さあ！これから本格的な急坂の登山道が始まる。

・ここからが樹林帯に入り急坂をほぼ直等する登山道となった。ひたすら登って7時半に見晴台に着いた。ガスもすっかり晴れて快晴となり真正面の展望が開けて イドンナップ岳・ナメワッカ岳の山並みが聳えて見える。

「これなら10時半～11時には頂上に着けそうだ」頑張ろう！

・ところがそんなに甘いものでは無かった。9時過ぎにほぼコースタイム通りに水場に着いたが、この沢が残雪でべっとりと覆われている。おまけに30度にもなるような急斜面の雪渓だ。



展望台からイドンナップ岳を望む

夏なら雪も溶けて沢の石の上をガンガン登れるのだろうが、今は山頂近くまで雪に覆われた雪渓が続いている。



・雪渓の雪はすっかり腐っていてアイゼンの歯がほとんど効かない。ピッケルも持っていないし、こんな急斜面の雪渓は危なくてとても歩けない。昨日までに3人も滑落して大怪我をしているそうだがよくわかる。なんとか恐る恐る雪渓を横断して対岸の草付きへたどり着いた。

・ここからは雪渓を避けて、草付きの急坂を喘ぎ喘ぎ登った。途中で雪渓の真ん中に不気味にストックが1本落ちているのが見えた。たぶん雪渓上を登って滑落した人のものだろう。

・滑る草付きの上を急坂直登するのは想像以上にきびしい。10分登っては5分休むというペースで高度を稼いだ。途中のお花畑で展望を楽しみながら一休み。



雪渓が終り大岩が目の前に

1時間も登れば山頂に着くと甘く考えていたが、1時間以上かかってやっと雪渓が切れて夏道が現れた。現在標高1850m、山頂まであと標高200mだ。目の前に大岩が大きく見えてきた。

夏道に出ればアイゼンを外せるし、足場も安定して楽に歩ける。



平取コースとの分岐点

大岩の横を通過して11時過ぎに尾根に出た。

・ここは平取コースとの分岐点、ここからは大展望を楽しみながらの尾根歩きで、山頂までもうすぐだ。



山頂の手前に干からびたヒグマの糞が落ちていた。こんなところまでヒグマが登ってくるのかと、さすがヒグマの宝庫・知床だと思った。



干からびたヒグマの糞

11時半に幌尻岳山頂に立った。
念願の幌尻岳、360度の展望を楽しんだ。

現在平取コースはまだ開いていないので、幌尻岳に登れるのは新冠コースだけ、と云うことは昨日新冠山荘に入山した私を含めた3人だけと云うことになる。



その3人が山頂に揃った。ただ札幌の方は若いし、地元で慣れているのか、ペースがすこぶる早く、45分先にある「七つ沼カール」を見て戻って来たという。「片道40分。行ってきなさいよ。素晴らしい眺めだったよ。」と云ってくれたが、わたしも10時半頃に山頂につければ「七つ沼カール」展望をしようかと思っていたが、もう12時前、とても時間的にも体力的にも下山に間にあわないのであきらめた。山頂で展望を楽しみながら昼食を撮った。

・こんな山奥なのに、ここ幌尻岳山頂は携帯電話が通じる！それもバリ3だ。早速朋子に電話して「無事登頂」を伝えた。

・帰り道も心配なので早めに下山しないと、と気が焦り、11時50分に昼飯もそこそこに下山を始めた。雪渓は急斜面のうえに雪が腐っていてアイゼンが効かないので、雪渓横の草付きを下ったがここも勿論急斜面、滑らないようにアイゼンを付けてハイマツにしがみつきながら慎重に下った。体力を消耗しきってもうクタクタだ。登りで難儀した「水場」では対岸に渡るため雪渓上をトラバースしたが、なにしろアイゼンが効かないので、一歩一歩ステップを作りながら慎重に渡りきった。滑ったらそれこそ谷底への滑落が待っている。



ここを過ぎればあとは樹林帯の急坂。箆をかき分けてガンガン下り、急坂最後の渡渉点に15時に到着した。

・渡渉は濡れることも無く無事通過し、あとは沢沿いの道を山荘へと急いだ。山荘近くまで来て、今朝難儀した岩壁のトラバースが最後に待ち受けていた。岩がボロボロで崩れやすいうえに、足が疲労しているのと、足場が不安定なので、掛けた足場が崩れてあわや滑落という場面があったが、なんとか踏ん張って何を逃れた。落ちれば川面まで10m以上も滑落し大変だっただろうと、思い出しても恐ろしく、良く無事に帰って来たと思った。何しろ今日登ったのはたったの3人だから、誰も助けてくれなかったかもしれない。考えただけでもぞっとする。16時少し前に無事？山荘に帰還した。クタクタだ！



・山荘横の沢で身体を拭いて、汗だらけのシャツを着替えてさっぱりした。札幌の方はすでに2階で横になっていた。相変わらず何もしゃべらない。私の後から山頂を下った大分の方は、4時過ぎに無事到着した。今日の入山者は誰もいないらしく、今夜も昨夜と同じ3人で寝ることになった。

・さすが3人とも疲れてらしく、大分の方も昨夜のような元気が無い。みなそれぞれにボソボソと食事を摂って、さっさと横になり寝てしまった。昨夜ほどの冷え込みはなく、疲労とも重なって、まだ外は明るいというのに深い眠りに落ちて行った。

今日は疲れたし、危なかったし、すばらしかったし、色々なことが頭の中を渦巻いて・・・。
でもさすが幌尻岳、大変な山だったし、良い山だった。

山頂からの展望をお見せしましょう



*今日はひたすら登ってひたすら下った幌尻岳だったが、途中の道では色々な花々と遭遇した。

タチツボスミレ、クルマムグラ、オオバミゾホオズキ、ズダヤクシュ、ゴゼンタチバナ
ミツバオウレン、ハンショウツル、ウコンウツギ、ナナカマド、コバイケイソウ、シナノキンバイ
ショウジョウバカマ、エゾノハクサンイチゲ、キバナシャクナゲなどお馴染みの花々が咲いていたが
エゾサイコ、エゾオオサクラソウは初めてお目にかかった花だった。



オオバミゾホオズキ



ズダヤクシュ



ミツバオウレン



コバイケイソウ



ショウジョウバカマ



エゾノハクサンイチゲ



エゾオオサクラソウ



エゾサイコ



お花畑で一休み

山頂付近ではさらに色々な花々が咲いていた。

ミヤマクスミレ、ヒメイチゲ、イワウメ、コメバツガザクラ、ミヤマダイコンソウ
ミヤマキンバイ、キバナシャクナゲ、ミネズオウなどなど。
ユキバヒゴタイは花が終わって果実を沢山付けていた。



ミヤマキスミレ



ヒメイチゲ



イワウメ



コメバツガザクラ



ミヤマダイコンソウ



ミヤマキンバイ



キバナシャクナゲ



ミネズオウ



ユキバヒゴタイ